

FIT journal
Vol.10/ 2023.May



北陸技術士懇談会

Hokuriku Professional Engineers Conference

目 次

1. はじめに
2. 令和4年度 総会
3. 令和4年度 特別講演会
4. 令和4年度 第1回技術研修会報告
5. 令和4年度 第2回技術研修会報告
6. 令和4年度 新・既技術士交流会
7. 令和4年度 北陸3県内合格者名簿
8. 令和4年度（2022年度）役員名簿
9. 令和5年度（2023年度）行事予定（案）

1. はじめに

会員各位には、北陸技術士懇談会（以下、F I T）の活動にご理解とご協力を賜りお礼申し上げます。

昨年は2022年北京冬季オリンピック、パラリンピック、2022サッカーワールドカップ、今年度は2023ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）での日本代表選手の大活躍に日本中が湧きました。昨年2月に始まったウクライナでの戦禍の報道が日常化するなか、空を覆う雲の隙間から太陽の光が差しように日本中を明るくしてくれた選手達に感謝し、益々の活躍を願っています。

2020年に始まったコロナ禍は、2022年の11月から2023年2月の第8波が2月末に落ち着き、5月8日から新型コロナは5類に変わります。本会は2020年からすべての交流会を控えてきましたが、遂に、4月22日に4年ぶりの新・既技術士交流会を開催しました。合格者45名を含む109名の参加により盛会となり、参加者に感謝申し上げます。その様子は新・既技術士交流会の報告をご覧ください。交流会の復活によって、県境と部門の枠を超えたF I Tならではの交流の輪がますます拡がり、会員相互の親睦がさらに深まることを願っています。

さて、F I Tでは2021年度から若手技術士部会が活動を開始しました。2022年度も若手ならではの企画がとても好評だったと聞いています。女性技術士とともに若手技術士の活動が拡大し、F I Tがより活性化することを期待しています。一方、元気でご活躍の高齢技術士の交流の場を作りたいと密かに思っています。さらに、ホームページの充実や会員名簿のセキュリティ強化等々、今後とも会員満足度の向上のための取り組みを進めていきたいと思っておりますので、引き続きF I Tへのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

おわりに、昨年8月の豪雨災害および5月5日に起きた珠洲地震の被災地の復興ならびにウクライナ侵攻による戦禍の終結が一日も早く実現することを願うとともに、会員各位のご活躍とご多幸を祈念し、巻頭のご挨拶とします。

北陸技術士懇談会 会長 今度 充之

2. 令和4年度 総会

令和4年度北陸技術士懇談会の総会・特別講演会を令和4年6月11日（土）金沢勤労者プラザ1F会議室で開催した。

今年度は、対面形式とオンライン（Zoom）形式でのハイブリッドでの開催とした。

開会の挨拶で橋本会長から、当懇談会のコロナ禍中での活動内容紹介の他、3年ぶりに対面での総会開催にあたり関係者への御礼と各議案に対する承認とご意見をいただきたいとのお願いがあった。

総会の議事進行は、会則により会長が議長となり議事を進行した。

1. 議 事

- 第1号議案 令和3年度 活動報告と決算（案）
- 第2号議案 令和4年度 活動計画と予算（案）
- 第3号議案 役員改選（案）

2. 報告事項

3. その他

以上の内容について審議を行い、いずれも原案通り承認された。

なお、役員改選では今度新会長、大江、西出両新副会長への交代が承認された。

報告事項では、会費納入状況や、女性部会の平澤委員長、若手技術士部会の辰橋委員長から活動報告と課題について報告があった。



【3年ぶりの会場開催となった総会の様子】

3. 令和4年度 特別講演会

総会終了後、同会場において約30名、オンライン参加を含めると約100名の参加により、特別講演会を開催した。

■講演内容

講演1：「福井駅周辺の近況」

福井市 都市戦略部 次長 小嶋 直人氏

北陸新幹線の敦賀への延伸開通まであと1年10カ月となり、福井駅周辺の再開発がすすめられている。



新幹線という大きなインパクトを活用するためのプロモーション「福いいネ！」の紹介にはじまり、さまざまな取り組み事例の紹介があり、興味深い講演であった。

【小嶋氏のご講演】

(1) 官民連携による取り組み

自動車の普及台数の増加と共に、郊外型の商業施設が増える中、駅前のにぎわいを創出する取り組み「ふくみち」、「まちキャン」、「ワンパークフェス」の紹介があった。「ふくみち」は、駅前の中央大通りにキッチンカー、図書館などを呼び込むというものである。「まちキャン」はまちなかキャンプの略語で駅から500mのところにある足羽川の河原でキャンプをしようというものである。「ワンパークフェス」は駅から400mのところにある中央公園で野外音楽フェスを開催するというものである。コロナ禍前の令和元年7月の開催時には約1万人が集い、約6億4千万円の経済効果があった。

(2) 交通結節機能・公共交通の強化

駅西口広場を4000㎡から11,000㎡へ拡張して、中央大通りにあったバス乗り場、電停の終点を全て駅西口へ集約した。えちぜん鉄道と福井鉄道はそれぞれ「キーボ」、「フクラム」の愛称のLRVを導入、田原町駅での相互乗り入れを実現し、越前武生駅から鷺塚針原駅まで乗り換えなしで行けるようになった。沿線には福井商高や啓新高があり、通学の利便性が向上した。また、大雪時での除雪対応や資材の共同調達、設備投資等の工事一括発注などでも連携をすすめている。新幹線開通後は、JR北陸本線を継承する第三セクター会社も発足し、3社でメリットがある事業連携を検討していくとのことである。

(3) 駅周辺の再開発事業

駅西口の中央通りと電車通りの間のA街区を中心とした大規模な再開発がすすめられている。高さ105mの一般向けとシニア向けのマンション、高さ120mのマリオットホテルとオフィスビルの建設が進められている。フードホール、店舗エリアに入居する店も徐々に明らかとなり、開業に向けて気運が高まっている。平成28年の駅西口広場への福井鉄道の乗り入れとハピリンの開業を機に駅前の人の流れが増えたという結果が出ている。しかし、福井駅の一人あたりの平均滞在時間は駐車場の無料サービスの2時間とほぼ

リンクした結果となっていることもわかった。今後は「恐竜増殖プロジェクト」をすすめ、おろしそばや福井城址などの歴史遺産の活用による取り組みを進めていくとのことである。

講演2：「新型コロナウイルス感染拡大が救急医療・救急搬送に及ぼした影響と救急医療・救急搬送の未来！！」

公立小松大学 大学院サステナブルシステム

科学研究科 生産システム科学専攻 教授

高山 純一氏



【高山氏のご講演】

救急医療・救急搬送に関する研究を長きにわたりされており、それらへの新型コロナウイルスが及ぼした影響について、いくつかの視点から実際どのようなことが起こっていたか、また今後の課題についての内容で興味深い講演であった。

(1) 新型コロナウイルスの感染状況

令和4年5月31日時点での国内の10万人あたりの感染者数は沖縄が第1位、石川は12位と東京の20位よりも多く、感染者数の状況としてはよくない傾向を示している。死者も令和4年はこの半年ほどで、令和3年の年間死者数とほぼ同等の数となっている。特効薬もまだない状況でもあり、まだまだ警戒が必要なウイルスである。

(2) 感染拡大が日本の経済・社会に及ぼした影響

国土交通省のデータから、観光事業、交通運輸事業が大きな打撃を受けている。業種によっては資金支援や雇用調整助成金の活用割合も高く、これらの支援がなければ、多くの事業者が倒産していたであろう。特に、貸し切りバス事業と航空事業はかなりの大打撃を受けている。

(3) 感染拡大が救急医療・救急搬送に及ぼした影響

コロナ患者対応病床が増加したことにより、一般の救急患者が容易に受け入れられなくなっている。令和3年末からのオミクロン株の流行時は通常の5倍ほどの救急搬送困難事案が発生している。心筋梗塞にかかり救急車を呼んだものの、受け入れ先の病院が見つからず、自宅へ戻されてそのまま亡くなってしまったという悲しい事例がある。講師の親戚の方が同じような救急搬送困難に遭遇して、病気発症からわずか5日後に命を落とされたという生々しい話もされていた。

(4) これからの救急医療・救急搬送のあり方

現在の課題としては、医療スタッフの絶対的不足、情報システムのリアルタイム更新の不備、高度救急医療機関の地域的偏在がある。これらの問題を解決する方法として、5Gを活用して専門医と救急現場間で情報のやりとりをすることで、搬送途中でも遠隔診断や指示を出せるようになることが期待できる。日本の救急車は通報から現場への到着は平均10分以下であるが、救急病院への搬送や、ドクターヘリとのランデブーポイントまでの接続に時間がかかっている。これを減らすための交通インフラ整備や通信システムの開発が望まれる。いずれは救急車の中で手術を受けられるような時代が来てほしいとのことであった。

■交流会

今回もコロナ禍のため開催中止となった。11月に予定の技術研修会では交流会の再開が望まれる。

(文責 石川 金子 義幸)

4. 令和4年度 第1回技術研修会報告

令和4年11月5日(土)、北陸技術士懇談会第1回技術研修会が、金沢勤労者プラザにて、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、ハイブリッド形式(対面+WEB)で開催された。会場で41名、WEBで40名の計81名の参加があった。なお、交流会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら中止となった。

■今度会長のご挨拶



【今度会長のご挨拶】

今年度より会長となられた今度会長よりご挨拶いただいた。「最初に、8月の豪雨災害で被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、災害対応で活躍されている技術者の方々に敬意を表したい。本日は部門が異なる3名の方からご講演いただく。分野が異なっても、第一線で活躍される方の話とはとてもためになると考えている。ぜひ、みなさんも本日の研修会を今後の糧としていただきたい。」

今年度より会長となられた今度会長よりご挨拶いただいた。「最初に、8月の豪雨災害で被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、災害対応で活躍されている技術者の方々に敬意を表したい。本日は部門が異なる3名の方からご講演いただく。

■講演内容

講演1:「雨水浸水対策に対する取り組み」

積水化学工業株式会社環境・ライフラインカンパニー 総合研究所エンジニアリングセンター 管材グループ(東日本)部長 東 俊司氏

(1) 強プラ管の雨水排水管・雨水貯留管への適用

近年、気候変動の影響によるゲリラ豪雨の多発等により、雨水浸水対策が重要な課題となっている。自治体では、国土交通省から気候変動の影響を踏まえた雨水管理総合計画を策定するよう指導されている。下水管においても、ゲリラ豪雨に伴う短時間での雨量増加を背景に、埋設による外圧に加え管内の満水に伴い発生する内圧についても考慮するように規格が改正されている。

今回紹介する強化プラスチック複合管は、外面と内面にFRP層、その間に樹脂層があり、外圧・内圧に強いという特性がある。また、他に下水管として用いられるヒューム管、BOXカルバート、ハウエル管に比べ、以下の通り多くの面で優れている。

- ・水理性が良くサイズダウンが可能
- ・工事費が安価である
- ・軽量かつ施工性に優れ工期短縮が可能
- ・軟弱地盤に対応し耐震性に優れる
- ・耐酸性や耐久性に優れる

これらのことから、雨水管路として強化プラスチック複合管をお勧めしたい。

(2) らせん案内路式ドロップシャフト

近年、地下埋設物の増加により雨水貯留管は地下数十メートルに作られることが増えてきており、雨水をかなりの落差で貯留管に落とし込む必要がある。これにより、周辺への騒音に加え、雨水が空気を巻き込むことにより発生する圧力によるマンホール蓋の飛散という問題も生じている。



【東氏のご講演】

この問題への対応として、らせん流による落下エネルギーの減勢や混入空気の排気に対応したドロップシャフトがある。近年、新たに空気を排気する中心筒内に人が昇降できる空間を確保することにより、メンテナンス性を高めた中心筒昇降型ドロップシャフトを開発しており、普及を期待したい。

講演2：「飲料製造プラントにおける産業機械」

澁谷工業株式会社 PR システム森本工場
BS 技術IV部 主任技師長 山道 哲雄氏

(1) 澁谷工業株式会社の概要

澁谷工業株式会社（以下、澁谷工業）は、主に産業機械の製作を行う企業であり、その事業はパッケージプラント事業、メカトロシステム事業、農業設備事業等多岐にわたる。パッケージングプラント事業の中にボトリング設備があり、飲料やお酒、化粧品、洗剤等をペットボトルやびん、軟容器へ充填、発送準備等を行う機械を製造、販売している。今回はペットボトル飲料に関する工程・機械を紹介する。

(2) ペットボトル飲料の工程紹介

ペットボトル飲料の工程は、大まかに①ペットボトル供給、②洗びん、③充填、④キャッピング、⑤ラベリング、⑥箱詰め、⑦出荷準備の流れとなる。このうち、②～④は無菌空間内で一連のシステムとして構築しており、この無菌充填システムは、澁谷工業が世界シェアの80～90%を占めている。無菌充填システムでは過熱による滅菌処理が不要となり、「飲料の風味を保つことが出来る」、「ペットボトルの耐熱仕様が不要で軽量化」というメリットがある。

無菌充填システムは回転体の機械が連続するラインとなっており、工程ごとに回転体の直径が異なっている。これは、工程ごとの所要時間は異なるがライン全体のスピードを一定に保つためである。最も回転体の直径が大きい（最も時間を要する）のは洗びん（リンサ）である。リンサは、エア吹付と無菌水による洗浄が一般的であるが、近年は電子線（Electron Beam）を用いた機械も製作している。



【山道氏のご講演】

充填システムには、ウェイトフィラとフローメータフィラがある。ウェイトフィラは注ぎ込んだ液体の重さを計測して充填を終了する形式であり、メンテナンス性に優れているため主流となっている。一方、フローメータフィラは流量を計測する形式で、ウェイトフィラに比べ工程や機械構造が複雑であるが、短時間で炭酸飲料を充填することに優れている。

講演3：「敦賀港の港湾計画改定について」

福井県三国土木事務所長 高野 政志氏

(1) 港湾計画改定の流れ

港湾計画とは、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する地域の保全に関する計画であり、10～15年程度の周期で改定されるのが一般的である。

計画の改定では、港湾関係者で幅広く20～30年後の長期的な将来像を議論したうえで計画を検討し、地方港湾審議会や交通政策審議会に諮問するなど、検討内容・調整先は多岐にわたる。敦賀港の場合は、2年余りで改定したが、このような短期間で改定できた事例は他にはほとんどないと思われる。

(2) 敦賀港の現状

重要港湾に位置付けられている敦賀港は敦賀湾内にあり、北陸自動車道や鉄道、今後開通予定の新幹線



【高野氏のご講演】

と近接するなど、交通の要衝である。入り江であるという自然の地形を活かし、平安時代から交易が行われており、明治以降はロシアやヨーロッパとの玄関口として機能してきた。現在も、国際航路、国内航路が充実しており、特に内航定期航路は20便あり、日本海側ではトップである。また、災害時には自衛隊派遣の経由地になるなど、日本海側における防災拠点としての機能も有している。

(3) 計画改定の内容

計画の改定内容は、既存の機能を強化するという方向性で、「埠頭再編による物流拠点の効率化」、「耐震化等による日本海側の防災拠点としての機能強化」、「クルーズ船の更なる誘致と鉄道との連携によるにぎわい・交流機能の強化」を目指すものとした。また、PORT2030に示されている「次世代高規格ユニットロードターミナル」に準じ、離着岸の自動化等による海上輸送の安全性・効率性向上を進めることとしている。

改定作業においては、波の影響や漂砂等、様々な予測が必要であるが、予測が困難であり従来の手法や工法を踏襲する傾向にあった。若い技術者の方々には、予測技術の確立等のご活躍を期待したい。

各講演においては動画を使用されるなど、非常に視覚的でわかりやすい講演であった。また、会場において活発な質疑応答がなされ、盛会であった。

最後に大江副会長から閉会の挨拶があった。

（文責：富山 酒井 信次）

5. 令和4年度技術研修会（講演会）報告

令和5年4月22日（土）、北陸技術士懇談会第2回技術研修会が、金沢勤労者プラザにて新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら開催された。会場で41名、WEBで18名の計59名の参加であった。なお、交流会は、新・既技術交流会（合格祝賀会）を4年ぶりに開催した。

■今度会長のご挨拶

日頃より、北陸技術士会（FIT）の活動に対し、ご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。本会では、例年、総会・特別講演会、秋と春に技術研修会を開催し、これに合わせて交流会を開催してきたが、交流会はコロナ禍により3年半開催出来なかった。



【今度会長のご挨拶】

今回は、本日の技術研修会後に合格祝賀会を開催できるため、交流の機会を復活させたい。第2回技術研修会には、多くの参加を賜わり感謝申し上げますと挨拶された。

■講演内容

講演1：「交通ビッグデータ×データサイエンス×まちづくり」

石川工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授
寺山 一輝 氏

（1）これからの都市・交通計画の在り方

従来は、アンケート調査や断面交通量調査等により人・モノの交通実態を把握していたが、ある地点、特定被験者のデータであることや調査コストがかかる。また、交通需要予測では、四段階推定法があるが、ゾーン単位の需要予測であり、都心での来街者の詳細な移動や滞在が予測できず、分析の解像度が低いことなどが問題として挙げられる。

これからは、交通ビッグデータ（携帯の位置情報、ライブカメラ、オンライン画像など）を可視化し、加えて、データサイエンス（多変量解析、機械学習など）を活用することで、高精度・高解像度なまちづくりに関する様々な政策が予測可能となる。

（2）研究紹介

①GPS 行動軌跡データを用いた回遊行動分析

都心の空洞化が進行しており、その活性化が喫緊の課題である。来街者の回遊行動を促進するためには、

施設配置と多様な交通サービスを確保し、双方を組み合わせた都心空間の再整備が求められる。こうした再整備戦略の策定と整備効果の評価には、来街者の回遊モデルの構築が必要不可欠と言える。

本研究では、金沢市における来街者の移動と滞在行动をGPSデータで判別し、回遊経路と滞在箇所を分析した。また、神戸市では交通手段を判別し、トリップ属性をみると移動手段別の平均回遊時間や平均滞在箇所数は、徒歩+バスが多く、交通手段を組み合わせると滞在箇所や回遊時間ともに増加することが分かった。

②画像認識による街路空間の類型化と回遊行動の関係

都心の賑わいを創出するために、歩行者優先の空間整備を推進し、来街者の回遊行動を詳細に分析することが求められる。そのためには、回遊行動データ（目的地、滞在時間、移動経路など）と空間特性指標（沿道の施設配置、街路の構造・接続性・景観など）の高精度・高解像なデータが必要である。

本研究では、経路選択行動に着目し、選択要因について画像認識ツールを活用して分析した。具体的には、神戸市中央区の都心商業地域において、対象地域内の道路ネットワーク（ノード・リンク）を、Google ストリートビューを用いて、全ノードの全方位画像を取得し、YOLOv3 で画像認識を行った。その結果、歩行者は最短経路で飲食・娯楽施設が少ない街路を選択することや、歩行者優先でかつ歩行者が多い街路を選択することなどが分かった。

③GPS データを用いた道路利用者の交通実態と橋梁の維持管理

高度成長期に建設された橋梁は、老朽化しているものが多いが、全ての橋梁を健全な形で維持することは困難である。そのため、補修・更新・集約・撤去などの優先度の判断（トリアージ）が必要である。一方、橋梁の補修工事には、通行規制を行う必要があり、そのための道路利用者の不便益（社会的損失）を定量化し、維持管理の優先度の検討が必要である。

本研究では、輪島市の都市計画区域内を対象に、Agoop のGPS データや橋梁位置データを用いた。橋梁のトリアージは、社会的な性質（道路の特性・接続性、人口分布、交通実態）と技術的な性質（橋梁の特性・健全性）から分析した。橋梁の健全度と通行規制による社会的損失をみると、定期的なメンテナンスが必要な橋梁もある一方、重要度の低い廃橋の候補と考えられるものも分かった。

(3) おわりに



【寺山氏のご講演】

BIG dataの可能性は無限大であり、BIG dataをBIG garbageにしてはいけない。手間はかかるが、BIG dataをデータサイエンスで分析することにより、より良いまちが実現できる。

講演2：「農業農村整備事業と環境配慮（福井県を事例に）」

福井県土地改良事業団体連合会 事業部 環境計画課 課長 佐々木 繁一 氏

(1) 農業農村整備事業で取組む環境配慮とは

背景として、2001年土地改良法の改正以降、土地改良事業の施行に当たっては、「環境との調和への配慮」が事業実施の原則として位置付けられた。また、農業土木研究者により農村生態系の解明がされた。

生態系保全を取り組む視点としては、農業農村整備事業を行うことが前提であり、農村生態系は人の営みによって成り立つ自然であり、基本スタンスは、保護や保存ではなく、「保全」である。

(2) 農業農村整備事業における環境配慮施設導入の流れ

事業計画段階では、農業農村整備事業環境配慮検討会議や環境情報協議会（地元）に地区の生物について情報提示を行う。また、各会議での意見・要望については、取りまとめを行い事業実施に反映する。

事業実施段階では、生物調査を実施し、環境情報協議会に情報共有および生物保全の合意形成、環境配慮工法（案）の提示を行う。環境情報協議会は、学識経験者（大学、生物専門家など）、事業主体、土地改良区（管理）、生物調査者、設計コンサルタントからなる。土地改良区および地元に対し、生物の情報提供を行い、協議を重ね「環境配慮施設」の選定、設置位置を決定している。協議機関は事業工期の1～2年目に集中し、工期内に1～3回程度開催している。また、地元関係者や小学生を対象に環境学習会も開催している。

(3) 農村地域に生息する主な生物

生活型による淡水魚類のグループ分けでは、一次的淡水魚（一生を淡水域で生活する）、二次的淡水魚（一生を淡水域で生活するが、海でも生活が可能）、陸封型淡水魚（元来は海水魚であるが、生活環の一部で汽水域または淡水域に入る）がある。福井県では、カワム

ツ、ヌマムツ、オイカワ、ウグイ、アブラハヤ、タカハヤ、サクラマス（ヤマメ、絶滅危惧種）、アユ、ドンコ、ヨシノボリ類、スナヤツメ（絶滅危惧種）、カマツカ、タモロコ、モツゴ、ナマズ、ギンブナ、ヤリタナゴ（絶滅危惧種）、ドジョウ、キタノメダカ（絶滅危惧種）、ニホンアカガエル、モリアオガエル、トノサマガエル（絶滅危惧種）、アオダイショウ、カワニナ、オオタニシ（絶滅危惧種）、ゲンジボタル、マシジミ（絶滅危惧種）、カダヤシ、タイリクバラタナゴ、ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）、アカミミガメ（別名ミドリガメ）、ウシガエル、アメリカザリガニなどが生息している。

(4) 農業農村整備事業で導入した環境配慮施設

ミティゲーションにおける修正、軽減/消失、代償を生態系の保全・復元において目標とされる象徴種、希少種などを対象に、対象水域内で環境配慮施設を導入している。例えば、魚類が生活史の場（産卵、採餌など）として利用する水域ネットワークの形成を目指し、魚道の設置、幹線排水路や支線排水路と水田のネットワークなどを整備している。

しかしながら課題もあり、環境配慮施設が導入されなかった地区の共通事項としては、関係者の生物保全意識が低い。関係集落数が多い。環境情報協議会の回数が少ない、または開催されない。維持管理作業が問題となっている。事業関係者からは、生物の保全はわかるが、3面張りのきれいな水路にしたい。維持管理



【佐々木氏のご講演】

作業を軽減したい。近くで確認されるため、環境配慮施設を入れなくても戻ってくる。環境配慮のための負担金は出せないなどの意見がある。

課題解決の可能性としては、維持管理において誰が何を管理するのかの整理、事業完了後の維持管理活動支援の必要性、環境配慮施設に対応した技術基準書の整理、事業関係者の合意形成などが挙げられる。

技術研修会では、参加者から各講演において活発な質疑応答があり盛会であった。最後に大江副会長から閉会の挨拶があった。

（文責：石川 埒 正浩）

6. 令和4年度 新・既技術士交流会

令和5年4月22日(土)、令和4年度 新・既技術士交流会がANAクラウンプラザホテル金沢にて開催された。今回は、2019年～2022年度の合格者を迎え、新型コロナウイルス対策を万全に行いながら開催した。

会場には、来賓の日本技術士会北陸本部の平野本部長をはじめ 109名の参加があった。コロナ禍のため、今回は4年ぶりの開催であり、これまでにない様々なアトラクションを開催した。

交流会のオープニングは、金沢市の重要無形民俗文化財に指定され、約200年守り伝えられている加賀萬歳が、加賀萬歳保存会の皆さん(会長 井波人哉さん、野瀬鎌一さん、長谷紀之さん)より演じられた。



【加賀萬歳】

開会に当たり、今度会長のご挨拶の後、平野本部長からご祝辞をいただき、馳浩石川知事からのお祝いメッセージの披露があった。そして、大江副会長から乾杯のご発声があった。



【今度会長のご挨拶】



【平野本部長のご祝辞】



【大江副会長の乾杯のご発声と会場の様子】

続いて、金沢の3茶屋街の1つである ひがし茶屋街「春の屋」の美月(みづき)さん、「八しげ」のかつ

代さん、「藤乃屋」の七葉(しちは)さんから芸妓の舞とお座敷太鼓があった。



【金沢芸妓の舞】

また、二次試験新合格者、追加部門合格者、一次試験合格者にはステージに登壇いただき、2021年度の新規合格者である小林 亜海さん(㈱帝国コンサルタント)から合格者を代表してご挨拶があった。



【合格者の方々と小林さんによる代表挨拶】

さらに、バーテンダーがパフォーマンスをしながら、カクテルを作るフレア・ショーが開催された。わが国のトッププレイヤーであり、プロのフレア・バーテンダーのRayさんに盛り上げて頂いた。



【フレア・ショー】



【池田委員長の中締め】

最後に、池田総務委員長が中締めを行い、盛会のうち交流会を終えることが出来た。

(文責: 石川 埒 正浩)

7. 令和4年度北陸3県内合格者名簿

●令和4年度北陸3県内合格者名簿（官報及び当会で確認できた方のみ掲載：R5.3.10現在）

1) 第二次試験合格者（★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同）◆石川会場での合格者総数：71名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
福井	家市 邦夫	電気電子	(一財) 福井県産業薬物処理公社	石川	橋本 隆志	建設	白山市役所
石川	荒木 裕甫	建設	野々市市役所	石川	南出 重克	建設	ジビル調査設計(株)
石川	荻野 貴弘	建設	中部地下開発(株)	石川	吉田 有喜	建設	西日本旅客鉄道(株)
石川	佐藤 伊希	建設	(株)日本海コンサルタント	石川	菊田 誠	上下水道	荏原商事(株)
石川	清水 諒	建設	西日本旅客鉄道(株)	石川	舘 利彦	農業	石川県土地改良事業団体連合会
富山	高嶋 一秀	建設	(株)大代設計	石川	松木 準緒	農業	新潟県土地改良事業団体連合会
石川	高橋 満	建設	(株)国土開発センター	石川	本 憲太郎	環境	(株)国土開発センター
富山	高松 恵一	建設	(株)建成コンサルタント	石川	小門 律樹	環境	(株)東洋設計
石川	竹内 敬視	建設	西日本旅客鉄道(株)	福井	大倉 康史	環境	(株)北陸環境科学研究所
石川	田中 智之	建設	(株)国土開発センター	石川	水田 信行	総監-機械	澁谷工業(株)
石川	塚原 直幸	建設	(株)日本海コンサルタント	石川	徳田 真一郎	総監-電気電子	(株)柿本商会
石川	中野 秀平	建設	(株)日本海コンサルタント	富山	荒城 昌弘	総監-金属	YKK AP(株)
石川	成岡 丈晴	建設	(株)国土開発センター	石川	町口 敦志	総監-建設	(株)日本海コンサルタント
福井	野尻 秀郷	建設	(株)三愛調査事務所	富山	川合 裕二	総監-建設	富山県庁
石川	吐山 浩	建設	(株)国土開発センター	石川	中野 晃太	総監-建設	(株)日本海コンサルタント

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただくと幸いです。

氏名	部門	氏名	部門	氏名	部門
長谷川 元	電気電子	櫻井 康子	建設	荒井 秀和	上下水道
能 裕二	電気電子	東條 秀	建設	関原 順子	農業
久保 充史	電気電子	黒瀬 康夫	建設	牧 和宏	応用理学
杉本 昌繁	化学	草野 智之	建設	大塚 悠佑	応用理学
三矢 麻衣	繊維	黒崎 智治	建設	川本 高司	総監-建設
中川 静佳	建設	笠田 樹生	建設	清水 孝二	総監-建設
谷本 克明	建設	水崎 太貴	建設	川島 正樹	総監-建設
板谷 城宏	建設	中尾 慎一	建設	川端 信人	総監-建設
深田 圭佑	建設	田中 哲司	建設	高橋 智嗣	総監-建設
久保 壮史	建設	米原 史朗	建設	芹原 俊輔	総監-建設
長谷川 国宏	建設	大村 祐司	建設	木下 康秀	総監-建設
坂口 一俊	建設	山口 直也	建設	高田 大輔	総監-建設
河原 啓輔	建設	堀岡 祐介	建設	橋本 丈志	総監-建設
大井 哲哉	建設	高見 康夫	建設	中島 章文	総監-森林
赤尾 直紀	建設	泉 和成	上下水道		

2) 第一次試験合格者（★当会に連絡のあった方は県名及び勤務先掲載：順不同）◆石川会場での合格者総数：194名

県名	氏名	部門	所属先	県名	氏名	部門	所属先
富山	山田 尚徳	機械	第一物産(株)	福井	山田 瑛菜	建設	(株)サンワコン
富山	小倉 華濃	建設	NE テクノ(株)	石川	金平 健世	上下水道	(株)日本海コンサルタント
石川	古來 陽	建設	(株)日本海コンサルタント	福井	北野 絵理佳	上下水道	(株)東洋設計
石川	高口 理	建設	東京コンサルタンツ(株)金沢支店	福井	山崎 莉里香	農業	福井県庁
石川	横井 秀美	建設	東京コンサルタンツ(株)金沢支店	石川	山田 大樹	情報工学	
福井	窪田 旬希	建設	(株)サンワコン	石川	小堀 貴宏	環境	株式会社北都鉄工
福井	室田 正雄	建設	(公財) 福井県建設技術公社				

※下記の方々をご存じの方がおられましたら、当会事務局までご一報いただくと幸いです。

氏名	部門	氏名	部門	氏名	部門
秋本 雄希	機械	木下 遥介	建設	前田 秀雄	建設
石坂 知士	機械	黒崎 嶺	建設	前野 貴昭	建設
大島 阜暉	機械	越堂 温太	建設	牧野 友樹	建設
荻野 晃汰	機械	小島 颯人	建設	松田 岳	建設

酒井 康行	機械	齋藤 直希	建設	松田 友幸	建設
佐野 雄太	機械	齋藤 真人	建設	三浦 誠也	建設
虎井 秀一	機械	坂井 拍斗	建設	溝島 亜惟	建設
橋口 公彦	機械	坂下 輝匡	建設	御手洗 友哉	建設
細川 拓巳	機械	坂本 怜央	建設	南 月瞳	建設
保利 俊博	機械	澤 侑利	建設	宮本 一輝	建設
山本 貴則	機械	澤田 真優	建設	宮本 卓	建設
寺地 祐介	電気電子	柴田 竜輝	建設	宮本 翼	建設
中島 健太	電気電子	渋谷 涼平	建設	向坂 哲平	建設
橋本 直弥	電気電子	島田 正輝	建設	村岡 七海	建設
廣上 岳雄	電気電子	下村 成輝	建設	村崎 佑衣	建設
松本 吉永	電気電子	杉本 大知	建設	室田 清範	建設
矢島 直輝	電気電子	杉若 光	建設	室谷 真翔	建設
安田 圭伸	電気電子	鈴木 基文	建設	元平 菜摘	建設
冨塚 真奈美	化学	炭本 大輔	建設	森 明日香	建設
山下 莉奈	化学	園 彩香	建設	安原 隆介	建設
大井 拓郎	繊維	高谷 透弥	建設	山内 彩樺	建設
川端 聡史	繊維	滝川 航生	建設	山岸 恒介	建設
山下 智之	繊維	竹内 寧蓮	建設	山村 式舞	建設
縫田 知宏	金属	竹中 陽奈	建設	山本 朋幸	建設
武田 夏泉	資源工学	田中 ころこ	建設	山本 悠賀	建設
銅 健吾	建設	谷口 さとみ	建設	吉川 航平	建設
赤坂 凌	建設	田野 香織	建設	若林 輝	建設
浅賀 諒和	建設	田村 和弘	建設	伊藤 智紀	上下水道
新家 沙織	建設	田村 祐介	建設	尾畑 秀俊	上下水道
有城 健祥	建設	塚西 弘輝	建設	加藤 希	上下水道
粟林 猛	建設	辻岡 理仁	建設	神戸 一喜	上下水道
池田 美環子	建設	出口 公大	建設	寺西 紀人	上下水道
石坂 幸雄	建設	土井 真郷	建設	東倉 直輝	上下水道
石原 しいな	建設	徳田 悠輔	建設	林 美千菜	上下水道
市橋 季也	建設	戸山 拳士朗	建設	堀口 恭太	上下水道
伊藤 諒磨	建設	虎井 良佳	建設	丸山 俊平	上下水道
井上 直也	建設	永井 里奈	建設	村田 智早矢	上下水道
岩佐 明直	建設	長岡 湧郎	建設	明地 柚乃	上下水道
岩橋 カノン	建設	中川 巧大	建設	井関 雅仁	農業
上山 沙好	建設	中川 大輔	建設	紙屋 貴典	農業
受川 希彩	建設	中川 悠希	建設	中川 遼祐	農業
内山 竣介	建設	仲下 慶	建設	松村 詩保	農業
梅本 珠実	建設	中島 賢治	建設	室 信博	農業
江見 亮太	建設	中田 雄大	建設	川上 愛絵	森林
老田 智博	建設	中田 百合華	建設	佐藤 開	森林
大久保 誓也	建設	中村 俊介	建設	津軽 祉己	森林
小川 公平	建設	長村 遥	建設	福田 温	森林
奥西 正彦	建設	中山 学	建設	梶川 泰広	情報工学
長田 大成	建設	西沢 大毅	建設	荒木 拓真	応用理学
帰山 洋志	建設	西野 莉子	建設	高畑 宏章	応用理学
垣内 若菜	建設	人野 麻由美	建設	森川 昇汰	応用理学
角 謙吾	建設	能登 健仁	建設	吉田 夏子	応用理学
片山 琴絵	建設	野村 奈々子	建設	酒谷 斎	生物工学
金子 直城	建設	羽岡 陽平	建設	佐々木 俊亮	環境
亀井 宥希	建設	橋 開地	建設	笹野 勝裕	環境
川端 恭平	建設	橋 侑利	建設	佐藤 遼	環境
川端 匠光	建設	橋本 洋希	建設	水内 雄大	環境
川端 莉央	建設	長谷川 智	建設	山下 翔大	環境
北川 陽士	建設	樋口 拓実	建設	山田 孝幸	環境
北澤 駿	建設	平野 雄大	建設	三井 貴宏	原子力・放射線
木下 優輝	建設	古川 俊	建設		

8. 令和4年度（2022年度）役員名簿

役職	氏名	県名	部門			所属先	所属先役職
会長	今度 充之	石川	建設	総監		東京コンサルタンツ(株) 金沢支店	理事北陸支社長
副会長	大江 正道	富山	建設	総監		北電技術コンサルタント(株)	部長
副会長	西出 俊亮	福井	建設	総監		(公財) 福井県建設技術公社	理事長
理事(総務委員長)	池田 保裕	福井	建設	総監		(株)ワカサコンサル 福井支店	支店長
理事(総務委員)	玉村 清文	石川	応用学	建設	総監	アルスコンサルタンツ(株)	部長
理事(総務委員)	初田 浩也	富山	建設			新和設計(株)	代表取締役
理事(総務委員)	山崎 裕生	福井	農業	建設		丸一調査設計(株)	代表取締役
理事(事業委員長) [事務局長]	埴 正浩	石川	建設	総監		(株)日本海コンサルタント	専務取締役
理事(事業委員)	市埜 吉孝	福井	農業			福井農林総合事務所	
理事(事業委員)	金子 義幸	石川	機械			高松機械工業(株)	次長
理事(事業委員)	酒井 信次	富山	建設			大日本コンサルタント(株) 北陸支社	主幹
理事(事業委員)	飛石 勝	福井	建設			福井県庁	グループリーダー
理事(事業委員)	西田 勝幸	富山	建設	総監		北陸電力(株)	統括課長
理事(事業委員)	野口 将志	石川	建設			(株)ホクコク地水	
理事(事業委員)	細野 恭成	富山	建設			(株)アイベック	
理事(業務委員長)	竹内 勝信	富山	建設	総監		国土監理(株)	技師長
理事(業務委員)	石田 哲義	富山	機械			いしだ技術士事務所	所長
理事(業務委員)	鈴見 裕司	石川	建設			石川県庁	部長
理事(業務委員)	辻 隆治	福井	建設	総監		(株)サンワコン 東京事務所	本部長
理事(姓・幹員)	平澤 由佳	石川	農業			(株)国土開発センター	設計3部部長
理事(姓・幹員)	梅田 祐一	福井	応用学	建設	総監	(株)デルタコンサルタント	
理事(姓・幹員)	佐々井 忍	富山	建設			共和クレーン(有)	代表取締役
理事(姓・幹員)	畠田 照代	福井	建設	環境	農業	(株)北陸環境科学研究所	課長代理
理事(姓・幹員)	辰橋 浩二	石川	建設	環境		(株)国土開発センター	環境1部部長
監事(～R5.4)	庄田 浩二	富山	建設	総監		建設技研コンサルタンツ(株)	技術管理者
監事(R5.4～)	明石 秀司	富山	建設	総監	環境	日本海環境サービス(株)	取締役
監事	爲沢 剛	福井	農業			(株)帝国コンサルタント	
監事	中野 哲朗	石川	上下水道	建設	総監	中部地質(株)	副社長
相談役	有澤 良一	富山	建設			(株)アリサワ技術	代表取締役社長
相談役	橋本 栄治	福井	建設			前田建設工業(株) 関西支店 福井営業所	顧問
相談役	屋敷 弘	石川	建設	農業	総監	屋敷技術士事務所	所長

9. 令和5年度（2023年度）行事予定（案）

開催予定月日	事業内容
2023年6月3日	北陸技術士試験研究会の協賛 総合技術監理部門受験講習会 ※中止もあり
2023年6月10日	令和5年度総会・特別講演会
2023年6月30日、7月1日	技術士会北陸本部 年次大会（石川）
2023年7月16、17日	技術士第二次試験（石川会場）16日：総監部門、17日：総監以外部門
2023年10月	技術士全国大会（中部本部）
2023年11月18日	第1回役員会・第1回技術研修会（講習会）（金沢勤労者プラザ）
2023年11月26日	技術士第一次試験（石川会場）
2024年4月13日	第一次試験合格者（JABEE含む）ガイダンス（金沢勤労者プラザ）
2024年4月13日	第2回役員会・第2回技術研修会（講演会）（金沢勤労者プラザ）
2024年4月13日	令和5年度新・既技術士交流会（ANAクラウンプラザホテル）

★★ 編集後記 ★★ これまでの「懇談会 会報」は名称を「FIT journal」と改めました！

この会報が会員の皆様に配布されている頃には、新型コロナウイルスの感染症上の位置づけは、季節性インフルエンザと同じ5類に移行していると思います。この約3年半は、新型コロナウイルスとの戦いでもあり、私たちの生活も大きく制約されていました。しかしながら、With コロナという新しい生活様式により、オンライン会議やリモートワークなどが当たり前となり、今後も続くものと思います。

会員の皆様からは、北陸技術士懇談会に参加する楽しみは、研修会後の懇親会であるといわれることも多く、今後も技術研修会等により技術研鑽は継続したいと思いますが、懇親会もコロナに配慮しながら、開催したいと思います。ぜひ、多くの会員の皆様にご参加頂ければ幸いです。

【事務局】(株)日本海コンサルタント内 〒921-8042 金沢市泉本町2丁目126番地 TEL076-243-8258
北陸技術士懇談会 HP: <http://www.hokugikon.org/> ※過去の行事資料や写真が掲載されています